

## 平成25年度 事業報告

### [ 会 勢 ]

#### 1 会員数

期首 (4月1日)	増	減	期末 (3月31日)
149会員	3会員	4会員	148会員

#### 2 会費口数

期首 (4月1日)	増	減	期末 (3月31日)
889口	3口	17口	875口

#### 3 役員

理事14名 (うち 会長 1名、副会長 2名、常務理事1名)

監事 2名

#### 4 職員

事務局長 (常務理事兼務) 1名、総務班 1名、じん芥処理班 7名、

#### 5 主要施設

施設名	形状寸法等	数量	摘要
(1) 設備			
第一清港丸	木造船 4.8トン	1隻	川崎市より無償貸与
つばき	鋼船 13.0トン	1隻	〃
陸揚げクレーン	2トン吊	1基	〃
油回収装置		1式	〃
フォークリフト	2.38トン積み	1台	清港会所有
(2) 土地・建物			
土地		2,163.048 m <sup>2</sup>	川崎市より無償貸与
管理事務所	鉄骨造平屋建	56.33 m <sup>2</sup>	〃
作業員詰所	鉄筋コンクリート造2階建	133.46 m <sup>2</sup>	〃
焼却炉建屋	鉄筋スレート葺き平屋建	219.30 m <sup>2</sup>	〃
誘引通風機室建屋	コンクリートブロック造平屋建	32.00 m <sup>2</sup>	〃
燃料庫建屋	コンクリートブロック造平屋建	9.93 m <sup>2</sup>	〃

## 〔 事 業 〕

本会は、川崎港内における漂流物等の除去、及び環境保全の啓発等を行うことにより、海面を良好な状態に維持し、もって船舶の航行安全、公衆衛生及び環境保全の向上に寄与するため、次の事業を行った。

### 1 海面の清掃

川崎市から委託された海面清掃船「つばき」及び「第一清港丸」の2隻体制で、平日の午前午後の各一回、川崎港内の16運河と多摩川、及び東扇島の防波堤内と東公園沖を巡回すると共に、川崎市や海上保安本部、会員企業などからの通報にも対処し、じん芥や流木等の収集を行った。

平成25年度の収集実績は表1のとおりであるが、台風の影響等がほとんどなかったため、前年度を少し下回った。

表1. 平成25年度 じん芥収集実績表

月 別	稼働日数	稼働人員延数	じん芥収集量	摘要（産廃等）
4	19日	126人	80.00m <sup>3</sup>	消火器、ブルーシート
5	20	127	24.75	発泡スチロール多数
6	18	120	26.00	発泡スチロール多数
7	22	138	26.25	
8	22	135	23.75	発泡スチロール多数、ソファ
9	18	106	50.25	
10	20	130	28.50	テレビ、ブルーシート
11	13	54	10.50	
12	19	89	27.50	セーフィロン、プラスチックドラム
1	19	98	12.75	発泡スチロール
2	19	92	12.25	
3	18	49	12.25	
合 計	227日	1,264人	334.75m <sup>3</sup>	
24年度	228日	1,209人	375.25m <sup>3</sup>	

注) 塵芥収集量の中に流木を含む

ドック入り期間 「つばき」 2/20～3/31

「第1清港丸」 11/7～12/17

## 2 流出油の事故処理

本会は、「川崎管内排出油等防除協議会」に参加し、協議会や川崎市の出動要請に対応している。

平成 25 年度は、流出油等の事故処理のための出動要請は無かったが、海面清掃船「つばき」に油回収装置を搭載して稼働させる訓練を 3 回行い、即応態勢を整えた。

## 3 環境保全の啓発

### (1) 「海を守る月間」

7 月に行われる「東京湾クリーンアップ大作戦」推進会議に参加し、海面清掃船 2 隻に「海をきれいに安全に」の横断幕を掲出するとともに、詳細な収集データを提供した。

### (2) 「清港会独自キャンペーン」

8 月に当会の独自キャンペーンとして、「きれいな海を未来の子どもたちへ」を合言葉に、

①小学生によるポスターコンクールの優秀作品を、川崎市営バス塩浜営業所管内の路線バス車内に掲示するとともに、会員各位に配布した。

②海面清掃船 2 隻に横断幕を掲出した。

### (3) 「川崎みなと祭り」参加

10 月 12 日・13 日、川崎マリエン前広場に川崎清港会のブースを設け、「子どもが描く環境保護ポスター展」を開催して優秀作品の投票を行うとともに、「キッズ工作教室」を開催し、735 人の親子がリサイクル紙製品の動物クラフト造りに参加した。

### (4) 事業活動見学会

川崎市や「川崎みなとガイド協会」等が行う川崎港見学の一環として、清港会の海面清掃船の活動状況や、収集したじん芥・流木の状況説明を行い、特に収集量の多いビニール袋やペットボトルの投げ捨て防止をアピールした。